

## 検査実施料新規収載のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたび、「保医発0630第3号」により、下記の検査項目において検査実施料の適用が行われましたのでご案内いたします。  
お取り計らいの程、お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 適用日

2021年 7月 1日から適用

#### 新規収載項目

- sFlt-1/PlGF比 ..... 未受託
- 赤痢アメーバ抗原定性 ..... 未受託

※ 詳細につきましては、裏面をご参照下さい。



● 検査実施料の新規収載項目

適用日：2021年7月1日

検査項目	実施料	判断区分	診療報酬 点数区分	備考
sFlt-1/PIGF比	340点 (170点 ×2回分)	生化学的 検査(Ⅱ) (判断料 144点)	「D008」 内分泌学的検査 の「31」	<p>sFlt-1/PIGF比</p> <p>ア 血清を検体とし、ECLIA法により可溶性 fms 様チロシンキナーゼ1 (sFlt-1) 及び胎盤増殖因子 (PIGF) を測定し、sFlt-1/PIGF比を算出した場合は、本区分の「31」副甲状腺ホルモン (PTH) の所定点数2回分を合算した点数を準用して算定する。</p> <p>イ 本検査は、妊娠18週から36週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか1つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき1回に限り算定できる。なお、リスク因子を2つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できない。 (イ) 収縮期血圧が130mmHg以上又は拡張期血圧80mmHg以上 (ロ) 蛋白尿 (ハ) 妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状又は検査所見 (ニ) 子宮内胎児発育遅延 (ホ) 子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見</p> <p>ウ 本検査を算定する場合は、イのリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。また、イの(ハ)又は(ホ)に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載すること。なお、医学的な必要性から、リスク因子を2つ以上有する妊婦において算定する場合、又は一連の妊娠につき2回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。</p> <p>エ 本検査の実施に際し、本区分の「31」副甲状腺ホルモン (PTH) の所定点数2回分を合算した点数を準用して算定する場合は、本区分の「注」に定める規定は適用しない。</p>
赤痢アメーバ 抗原定性	223点	免疫学的検査 (判断料 144点)	「D012」 感染症 免疫学的検査 の「42」	<p>腸管アメーバ症の症状を呈する患者に対して、アメーバ赤痢の診断を目的として、酵素免疫測定法(定性)により糞便中の赤痢アメーバ抗原を測定した場合は、本区分の「42」赤痢アメーバ抗体半定量の所定点数を準用して算定する。</p>